

令和7年度 学校評価 教員・生徒・保護者による評価結果比較表【評価基準日:令和8年1月13日】

<教員(行動指標による評価)> 4:そう思う 3:どちらかという、そう思う 2:どちらかという、そう思わない 1:そう思わない
 <生徒・保護者(成果指標による評価)> 4:そう思う 3:どちらかという、そう思う 2:どちらかという、そう思わない 1:そう思わない
 <評価基準(4段階評価の平均)> A:3.3以上 B:3.0以上 C:2.6以上 D:2.0以下

領域等	評価の観点	評価項目	教職員実践目標(指標)	昨年	今年	評価	差	生徒	昨年	今年	評価	差	保護者	昨年	今年	評価	差	
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校Webサイト(ホームページ)の更新、学校・学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.4	3.5	A	0.1	学校ホームページや学年・学級通信等で、必要な情報が得られている。	3.2	3.1	B	▲0.1	学校ホームページや学年通信、携帯メール連絡網(マ・メール)等で、必要な情報が伝えられている。	3.3	3.9	A	0.6	
		地域や関係機関と連携した愛される学校づくり	近隣住民との積極的な交流を図るとともに、こども園・小学校・中学校・大学等との連携を充実させる。	3.6	3.3	A	▲0.3	地域の方とのつながりを深めたり、幼児・小中学生と関わったりする活動に参加したい。	2.7	2.6	C	▲0.1	地域とのつながりを深め、ふるさとを愛する心を育てる体験活動に子どもを参加させたい。	3.2	3.2	B	0.0	
	生徒指導	生徒指導方針の確立と指導体制の推進	生徒支援の観点からの生徒指導、並びに時代に即した生徒指導(服装・頭髪、特別指導等)の在り方について研究し、実践する。	3.2	3.0	B	▲0.2	校則に基づいて行われる生徒指導について、必要性を理解している。	3.0	3.2	B	0.2	現在の校則は、子どもたちに社会規範の遵守について指導を行う上で、妥当なものである。	3.1	3.1	B	0.0	
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談やアンケート等を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.6	3.6	A	0.0	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	3.1	3.0	B	▲0.1	教職員は子どもの気持ちに寄り添い、共感的に話を聞いてくれている。	3.3	3.4	A	0.1	
	進路指導	進路指導体制の充実	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実を努める。	3.4	3.4	A	0.0	進路選択や進路実現に向けた学習支援や行事、個別面談が充実している。	3.3	3.2	B	▲0.1	子どもの主体的な進路選択や進路希望の実現に向けて、必要な支援や情報提供が行われている。	2.9	3.3	C	0.4	
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	インターンシップや進路ガイダンス等を通して、生徒に自己の「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.8	3.5	A	▲0.3	様々な進路関係の行事を通して、自分自身の生き方や働き方等について考えることができています。	3.3	3.1	B	▲0.2						
	教職員の資質向上	計画性を持った研修の実施と実践的指導力の向上	年間行事計画に多彩な職員研修会を位置づけ、回帰性が高く、学び合い、高め合える教職員集団をめざす。	2.9	2.9	C	0.0											
		危機管理体制の整備	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、日頃から危機発生時の初期対応を意識しておく。	2.8	3.2	B	0.4											
	選択項目	学校運営全般	校務分掌と協働体制の確立	スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.2	3.0	B	▲0.2	学年の先生方の思い(どんな生徒に成長することを期待しているか)を、ほぼ理解している。	3.1	3.3	A	0.2	子どもの学年の経営方針(どのような生徒を育てたいのか)を、ほぼ理解している。	2.8	3.0	C	0.2
		働きがいのある学校づくり	自身のワーク・ライフ・バランスと、生徒と向き合う時間の確保を意識し、業務の在り方と勤務時間について見直しを行う。	2.6	2.9	C	0.3	先生に勉強の質問や悩み事等の相談をしたら、十分な時間をもって対応してもらえます。	3.4	3.4	A	0.0						
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	生涯学習の視点に立った実践力の育成	主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業の最初に生徒目録の「めあて」を示すとともに、最後に「振り返り」の時間を確保する。	3.2	2.9	C	▲0.3	授業内容の「振り返り」を行うことで、自分の成長や見方・考え方の変化を実感したことがある。	3.0	3.0	B	0.0	入学時と比較して、子どもは学ぶことへの意欲が高まり、「わかる喜び」を感じている(=勉強への苦手意識が弱まっている)ようだ。	3.1	3.0	B	▲0.1	
		基礎・基本の定着	「学び直し」の充実、効果的なICT活用、及び授業担当者・学年・学級担任の連携により、「誰一人取り残すことのない」きめ細かな指導に努める。	3.4	2.8	C	▲0.6	授業中や個別学習指導を受ける中で、「わかる喜び」や「できた」という達成感を味わったことがある。	3.3	3.3	A	0.0						
	総合的な探究の時間	社会的・職業的に自立し、自分らしい生き方ができるよう、将来設計をする力、夢を描き挑戦する力の育成に努める。	3.4	3.0	B	▲0.4	総合的な探究の時間に取り組んでいる内容は、自分にとって有意義である。	3.2	3.0	B	▲0.2							
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	観点別学習評価の在り方、及び指導と評価の一体化に係る研修に協働とともに、授業改善のための研究授業等を実施する。	3.0	2.8	B	▲0.2	生徒一人一人の実態に応じて、きめ細かな学習指導が行われている(と思う)。	3.2	3.1	B	▲0.1	子どもたちの能力・適性や実態を把握して、きめ細かな学習指導が行われている。	3.0	3.0	B	0.0	
共通項目	特別活動(学校行事等)	自主的・実践的な活動の活性化	生徒会活動やホームルーム活動(部活動)において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成を図るよう支援する。	3.3	2.9	B	▲0.4	学校行事やホームルーム活動には積極的に参加・協力している。	3.3	3.2	B	▲0.1	子どもは各種学校行事を楽しみにしており、積極的に参加している。	3.1	3.1	B	0.0	
共通項目	防災・安全教育	防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講等により、教職員の意識と技能を高める。	3.1	3.5	A	0.4	防災に関する訓練や授業等を通して、防災・減災の意識を高めることができている。	3.3	3.2	B	▲0.1						
	人権教育	人権教育推進体制の充実	生徒の発達段階や関心に応じた人権課題・人権教育に、LHRだけでなく教育活動全般を通して計画的に取り組む。	3.0	3.1	B	0.1	互いの違いを認め合い、自分も他者も大切にしようとする態度が身についている。	3.4	3.3	A	▲0.1	子どもには、互いの違いを認め合い、自他の人権を尊重しようとする態度が備わっている。	3.1	3.1	B	0.0	
課題教育	情報教育	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.2	3.0	B	▲0.2	スマートフォンやSNSを利用する時は、ネットトラブルが起きないように、ルールやマナーを守っている。	3.6	3.6	A	0.0	子どもはネットの危険性を理解し、スマートフォンやSNS利用時のルールやマナーを守っている。	3.0	3.1	B	0.1	
		学校の個性化・多様化	心のサポートシステムの取組推進(いじめ未然防止)	特別な配慮や支援を必要とする生徒の特性を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を行う。 「いじめ未然防止プログラム」を活用したホームルーム活動や各種体験活動を充実させ、生徒の自己有用感に裏付けられた自尊感情を育成する。	3.4	3.4	A	0.0	自分が苦手なことを理解し支えてくれる先生や、困っている時に相談できる先生がいる。 自尊感情(自分のことを好意的に受け止める感情)は、入学時よりも現在の方が強い。	3.3	3.3	A	0.0	子どもの個性や発達特性、こだわり等に配慮した支援や指導が行われている。 入学時と比較して、子どもの自尊感情、自己肯定感は高まっている。	3.0	3.1	B	0.1
				3.0	3.2	B	0.2		3.2	3.1	B	▲0.1		3.2	3.2	B	0.0	